

兵庫県保険医協会 政策研究会

社会保障の財源論

- 企業の内部留保をめぐって -

日時 12月7日(土) 17時～

会場 兵庫県保険医協会会議室

講師 小栗 崇資 先生

(駒澤大学経済学部教授・経済学部長)



小栗 崇資(おぐり・たかし)先生ご略歴

1950年愛知県生まれ。中央大学法学部卒業、明治大学大学院博士課程修了、商学博士。日本福祉大学助教授を経て、現在、駒澤大学経済学部教授、経済学部長。専門は財務会計論、経営分析論。主要な業績は以下の通り。<著書>『小さな会社が日本を変える一実例で考える21世紀型企業像』中経出版、『アメリカ連結会計生成史論』日本経済評論社(日本会計史学会賞受賞)、『日本のビッグインダストリー—自動車』大月書店、『新世紀の企業会計論』白桃書房、『国際会計基準を考える—変わる経済と経営』大月書店、『内部留保の経営分析—過剰蓄積の実態と活用』学習の友社。<論文>「内部留保の雇用への活用は可能か」『経済』2009年5月号、「震災復興のための内部留保の活用」『経済』2011年6月号、「内部留保論の現代的課題—その全体像と分析方法」『経済』2012年9月号、「内部留保分析の現代的展開—内部留保の実態と活用」『中央大学商学論纂』第53巻第5・6号

安倍内閣は来年度4月からの消費税増税を「決断した」と表明しました。その一方復興法人税を前倒して廃止し、そして法人税減税も検討されており、庶民に増税し、大企業には減税する姿勢が明らかです。所得が大きく減っている国民から8兆円奪い、270兆円もの内部留保を抱える大企業を減税をするのは道理に合いません。

そこで、今回は企業会計の専門家である小栗崇資駒澤大学経済学部教授に「社会保障の財源論 - 企業の内部留保をめぐって」と題して、ご講演いただきます。社会保障を考える上で、日本経済の現状とその再生に向けて内部留保とは何か、その実態と活用法、および関連して法人税制の現状と問題点などについてお話いただきます。皆さん、ぜひご参加ください。

兵庫県保険医協会 政策研究会 「社会保障の財源論 - 企業の内部留保をめぐって -」(12/7)

準備のため、参加のご都合をFAX078-393-1802までご返信ください。
この件に関するお問い合わせは、協会事務局TEL078-393-1807(担当:平田)まで

参加する

地区 _____ 氏名 _____

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

350号

2013年11月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

アスベスト裁判(労災型)

クボタ側証人はアスベスト飛散を否定

引き続き裁判支援にご協力を



遺族から支援の継続が訴えられた

クボタ旧神崎工場で下請け労働者として出入りし、石綿が原因で死亡した二人の遺族、藤原、山本両原告のアスベスト訴訟(労災型)の裁判が10月23日、神戸地裁で開かれた。

同日は、クボタ側の証人尋問が行われた。証人は、石綿運搬用ドンゴロス(麻袋)は丈夫、倉庫内にも(アスベストの)ほこりが立ちこめることはなかったなど、クボタがアスベストを飛散していたことを認めなかった。

しかし、原告側弁護士が、工場内での飛散の証言があること、ドンゴロスは破れないものではないことを事例をあげて追及すると、「時期のせい、私は体験していない」など曖昧な証言に終始した。

昨年8月のアスベスト訴訟(環境型)の神戸地裁判決が、クボタが工場外へ飛散させていたこと、それらにより周辺住民が中皮腫等の石綿関連疾患に罹患する危険性にさらされていたと認定した事実と照らし合わせても、今回の証人の証言は疑問視されるものである。

次回12月4日は、原告本人の証人尋問が行われる。

【今後の裁判などの日程】

- ①アスベスト裁判(労災型)
12月4日(水) 午後1時30分 神戸地裁 原告証人尋問
- ②アスベスト裁判(環境型)
2014年3月6日(木) 午後2時 大阪高裁 判決
- ③アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会第9回総会
2014年1月25日(土) 午後2時～午後4時 尼崎労働福祉会館中ホール

いのちと健康を尊重する公平、公正な判決を求める署名にご協力下さい。
これまで75,000筆の協力を頂きました。目標は100,000筆です。

ご協力いただける先生は、協会事務局・石本まで(☎078-393-1809)

県立塚口病院の充実と尼崎市及び阪神地域の医療を考える会

第6回総会 塚口病院跡地への医療・福祉施設の誘致働きかけを強めよう



綿谷副支部長が発言した

尼崎支部が参加する「県立塚口病院の充実と尼崎市及び阪神地域の医療を考える会(通称・県塚の会)」は11月9日、労働福祉会館にて第6回総会を開催し、市民ら28人が参加した。

総会では、事務局長の徳田稔市議が設立からの活動を改めて振り返り、8万筆を集めた署名や市民の運動が力となって県の計画が病院廃止から新病院建設へと変化してきた経緯を報告した。また、前回総会からの活動として、跡地利用について医療機関・福祉施設の誘致を求める署名に取り組み、4272筆を集め県に提出・申し入れたこと、尼崎市にも申

し入れを行ったことを報告した。

綿谷副支部長は、県が当初示していた跡地の売却という計画では医療機関の進出は容易でないと考えていたが、この間の会の申し入れなどを通じて、県が跡地の賃貸も含め検討していると言及したことに触れ、会が要望している跡地への医療機関誘致の可能性が出てきたと発言、閉会のあいさつで、これからも運動を広げていこうと呼びかけた。

総会では、代表の畠中正昭協会尼崎支部幹事、副代表の綿谷茂樹先生が再任され、引き続き住民の声を集めながら、跡地への医療機関・福祉施設誘致実現のための行政への働きかけや、新病院のアクセスの充実を求める取り組みを進めていくことが確認された。

第22回日常診療経験交流会

尼崎からも4名が報告



八木 秀満 支部長

10月27日、県協会主催の第22回日常診療経験交流会が神戸市産業振興センターで開催され、会員、職員ら205人が参加した。今回は「日常診療～思いえがく夢～」をメインテーマに、分科会のほか、医科・歯科・薬科交流企画「多剤投与の現状」や救急フェスタなど多彩な企画が催された。

分科会では、尼崎支部から今年の支部総会の企画にむけて実施したジェネリックに関するアンケートについて、八木秀満支部長が医師の立場からの結果を、薬剤師の滝本桂子氏(薬局リベルファーマシー)が薬剤師の立場からの結果を報告、ジェネリックに対する現場の声を紹介した。

そのほか、野村医院から、看護師の濱口英人氏が「独居の重症筋無力症療養者への支援体制」、理学療法士の太田智裕氏が「社会の中の理学療法士」をそれぞれ報告した。



濱口 英人 看護師



滝本 桂子 薬剤師



太田 智裕 理学療法士

支部会員の先生方へ

未入会のお知り合いの先生、ご子弟に入会を是非おすすめください

保険医協会は県下で7,100人以上の医師・歯科医師が入会し、開業医が安心して診療に打ち込めるよう支えあう、開業医自身がつくる団体です。医学の進歩と医療技術の向上、変化する医療制度への対応、怪我や病気など万が一の時の備えなど、開業医の診療、経営、生活を全面的にサポートします。勤務医の先生も県下で1,300人を超える先生方にご利用いただいております。

協会未入会のお知り合いの先生、ご子弟に是非、入会をおすすめください。



健康情報テレホンサービス 通話料無料 (0120) 979-451

< 12月のテーマ >

- 月曜日 子どもに多い溶連菌感染症ようれんきん
- 火曜日 嚔下障害と、ムせて咳こむ誤嚔えんげ ごえん
- 水曜日 誤嚔の原因とその防止策
- 木曜日 冬の感染性胃腸炎の話
- 金土日 くも膜下出血の話

※テレホンサービスは、協会ホームページでもご覧いただけます。既放送分も掲載しています。

<http://www.hhk.jp/>

支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せ下さい。

TEL 078-393-1805 / FAX 078-393-1802 e-mail naga@doc-net.or.jp 担当;長澤まで



第478回幹事会だより

10月18日(金) 於 阪急塚口「遠山」 参加:4人

- 尼崎支部の会員数と組織率
10/17 現在 医科 378人、歯科 142人
- 医療をめぐる情勢と運動対策
当面の支部活動のほか、県立病院問題、施設入居者への医療などについて意見交換した。
- 次回の幹事会
12月20日(金)に阪急塚口「SATSUMAYA」で開催。

お問い合わせはTEL 078-393-1805 長澤まで